

## ～印象記～

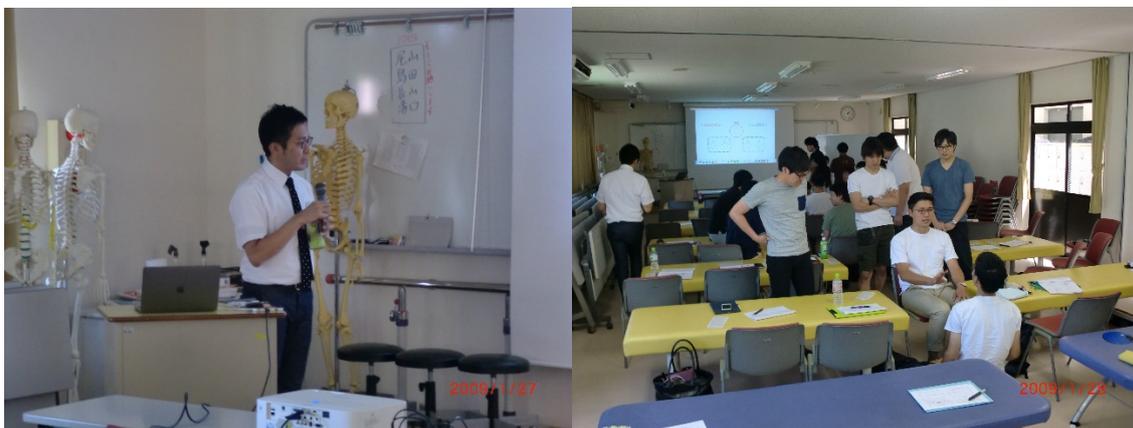
平成 30 年度の第 1 回研修会では、生野達也先生をお迎えし「在宅生活における動きのコツの教え方 ～運動学習理論を中心に～」をテーマにご講義を頂きました。

今回の研修会では、脳卒中後遺症のリハビリを対象とした内容であり、脳科学や認知運動療法を基盤に運動学習のメカニズムや学習を進めるための難易度の設定方法、体性感覚の階層性処理等についてお話していただきました。また、知識伝達型ではなく実技やグループワークが中心であり、自らが実際に体験・経験することでより理解を深めることが出来たと思います。

私自身、現在訪問リハビリテーションに従事しており、脳卒中後遺症者の「病院では歩けていたのに、家に帰ると歩けなくなった」といった在宅生活での身体の動きにくさについての悩みに多く直面しています。今回の研修を受け、セラピストの手で誘導するのではなく、利用者様御自身に身体の動きにくさを感じてもらい、理解してもらうことが大切であると感じました。

また、問題点的に的確に注意を向けさせる口頭での伝え方、運動学習するための難易度設定の方法をデモンストレーションや実技を通して学ぶことができ、翌日からすぐに仕事に活かすことができました。効果的な運動学習へ導くためには、伝えるだけではなく相手の訴えをしっかりと聴く力を養わなければならないということも教えていただきました。

講義全体を通して、参加者同士で積極的に意見交換を行い議論している場面が多々みられ、大変活気に満ち溢れた実りの多い研修会であったと感じています。



今後も奈良県理学療法士協会研修部では、皆様が少しでも興味を持っていただける内容を研修部一同で取り組んでいきたいと思っていますので、今後共どうぞ宜しくお願いいたします。最後になりましたが、大変お忙しい中ご講義を快諾頂きました生野先生に深く感謝申し上げます。(研修部 平本峻介)